

洪水対策案 5（複合案）について

■対策内容

- ・長良川県管理区間について、河道掘削、護岸、堤防整備などの河道改修を伴う。
- ・河川沿いの一部区域を利用して、越流堤、周囲堤といった堤防を設置し遊水地を設ける。
- ・そこで、洪水の一部を貯留することにより、遊水地設置箇所より下流のピーク流量を低減させる。
- ・板取川合流点より上流は、遊水地による効果が期待できないため、その流域内の水田を対象に、畔を嵩上げし雨水を一時的に貯めることで、長良川本川の洪水流量を低減させる。
- ・長良川の板取川合流点より上流の全流域内の水田を対象に、畔を嵩上げし雨水を一時的に貯めることで、長良川本川の洪水流量を低減させる。

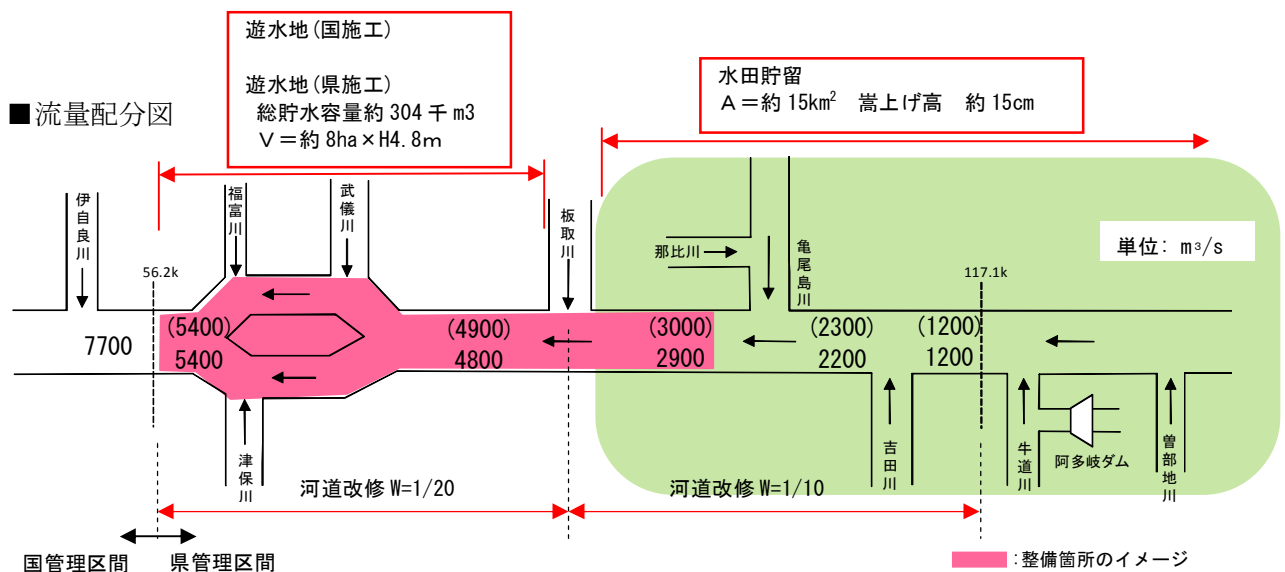


図-1.1 対象河道流量配分

■整備内容

【河道改修】

計画高水流量 (～77.0km) 4,800m³/s
(77.0km～) 2,900m³/s

【洪水調節施設】

遊水地(国施工)
遊水地(県施工) 総貯水容量 約 304,000m³
(=面積 約 8ha×水深約 4.8m)
水田貯留 面積 約 15km² 嵩上げ 約 15cm

■長所

- ・上流域では全流域における水田の貯留効果、下流域で遊水地による洪水調節効果により、全体にわたり洪水調節効果が発揮される。
- ・上流域に水田の貯留効果を見込むことで、遊水地の規模も抑えられる。

■短所

- ・河川管理者の管理施設とはならないため、適切な維持管理を行うことができない。
- ・水田の畦の維持管理を継続していくことなど、水田所有者にとって負荷が大きいことが想定される。
- ・許容する貯留量を超えた場合などで、畦が崩壊し河川への流入が急激に増えることが想定される。
- ・水田貯留による洪水調節効果を定量的に期待することは、これまでに行われていない。

■概算事業費

総事業費	約 697.75 億円 (※)
・河道改修費 (基本)	約 298.62 億円
・河道改修費 (追加)	約 7.31 億円
56.2～ 77.0km	(約 7.31 億円)
・遊水地(県施工)建設費	約 35.08 億円
・遊水地(国施工)建設費	約 206 億円
・水田嵩上げ費	約 150.74 億円

※嵩上げに伴う田圃の減反面積分の補償費を見込むと、更に 54.58 億円の費用が生じる。

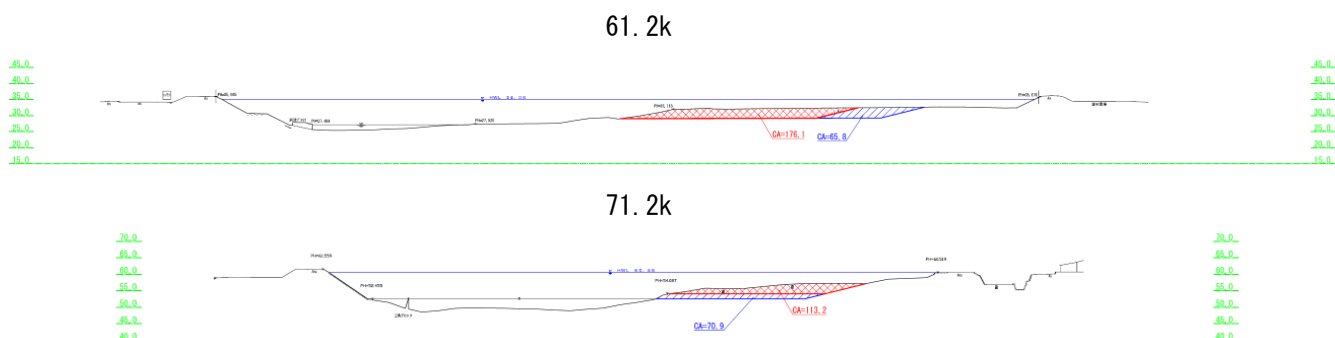


図-1.2 河道改修+遊水地+水田貯留案 横断面図 (※赤・青色範囲が整備イメージ)

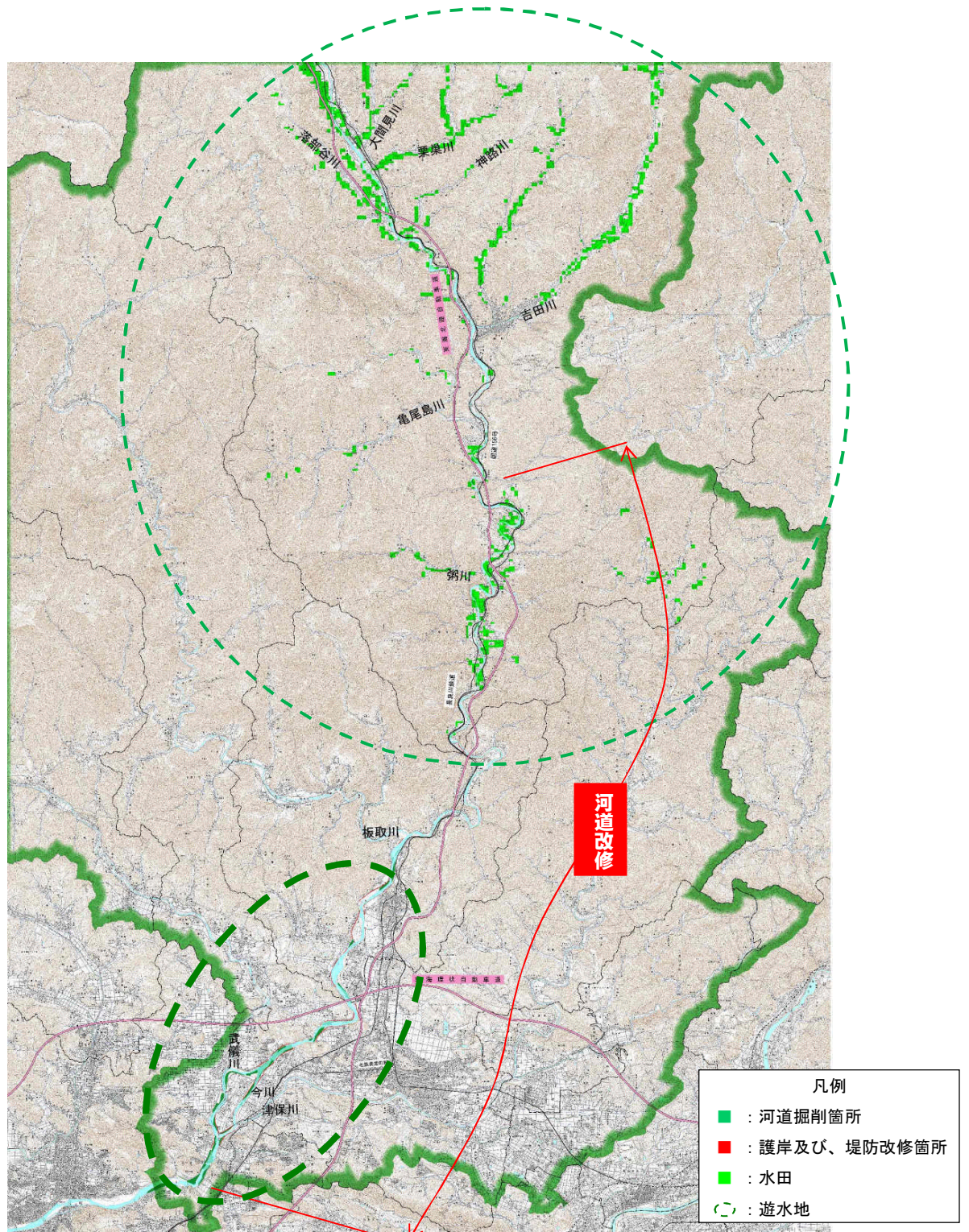
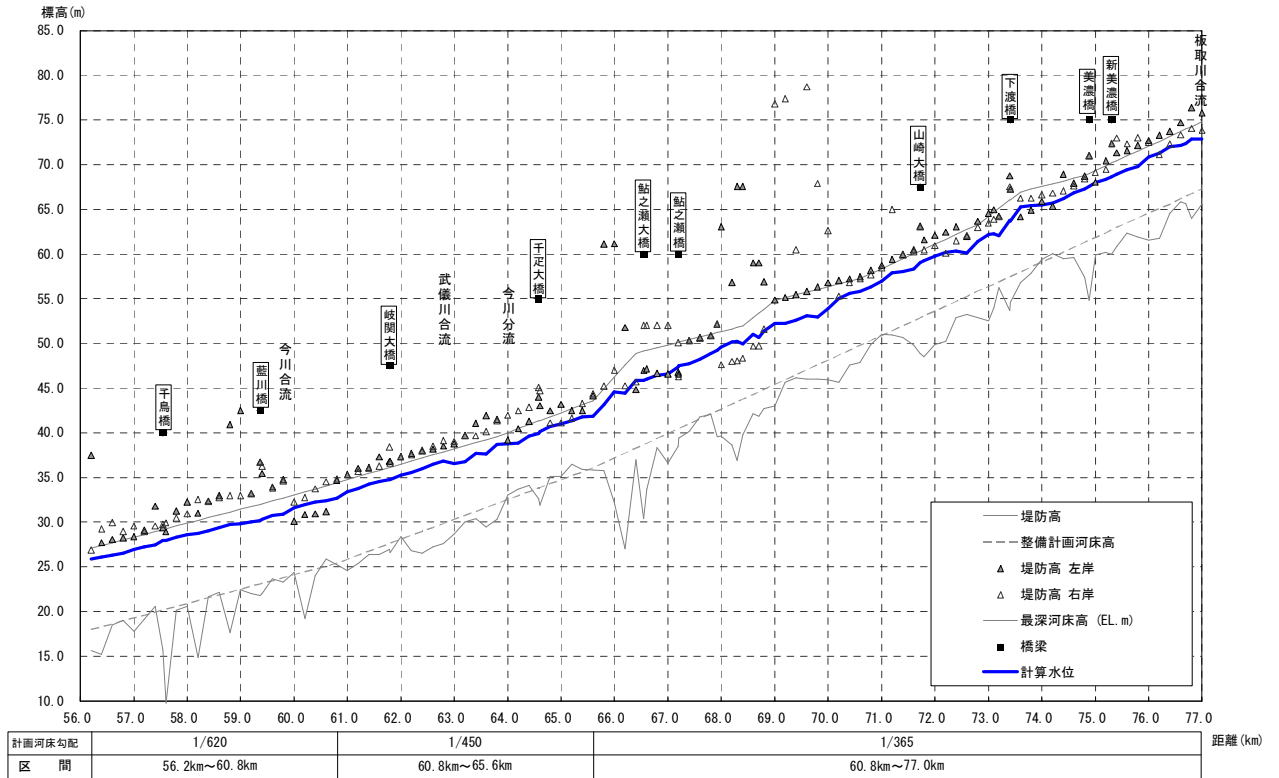
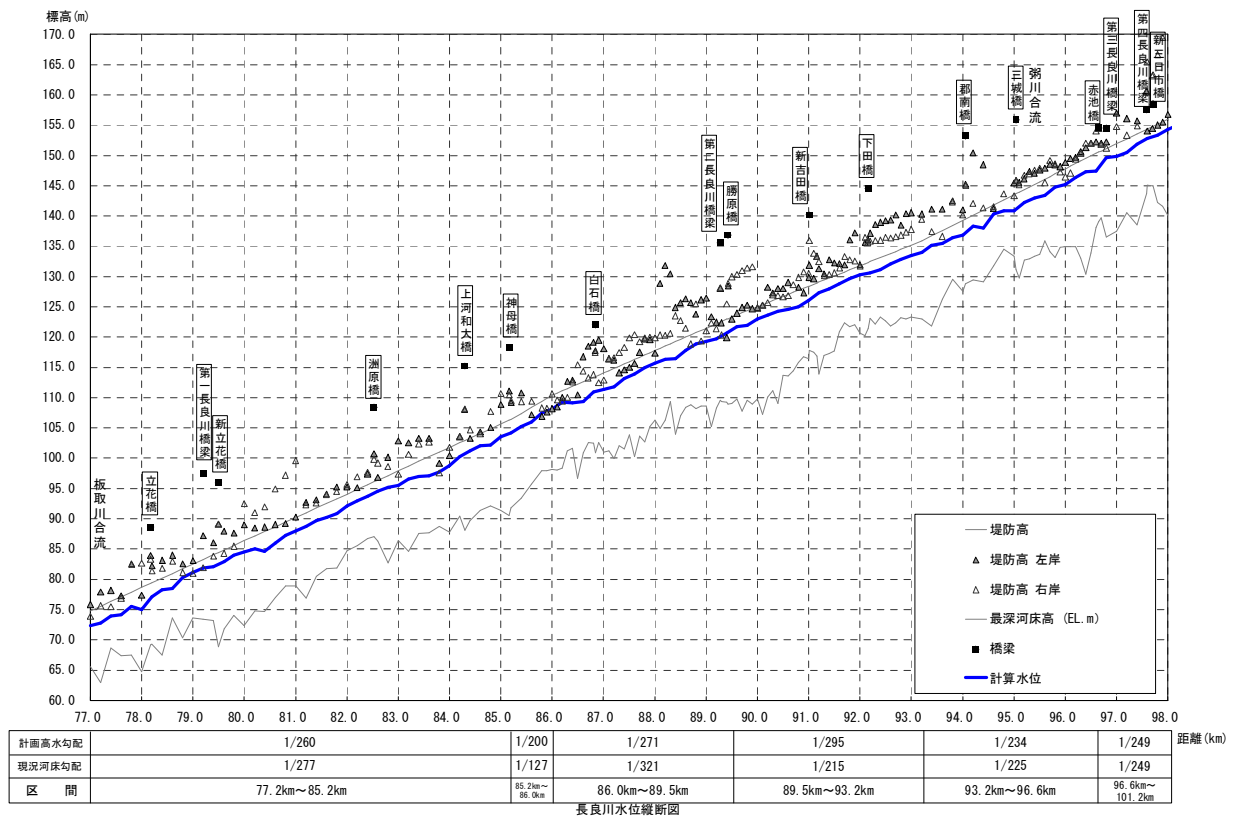


図-1.3 河道改修+遊水地+水田貯留案 平面図



長良川水位縦断面

図一.1.4 河道改修+遊水地+水田貯留案 縦断面(56km~77km)



長良川水位縦断面

図一.1.5 河道改修+遊水地+水田貯留案 縦断面(77km~98km)

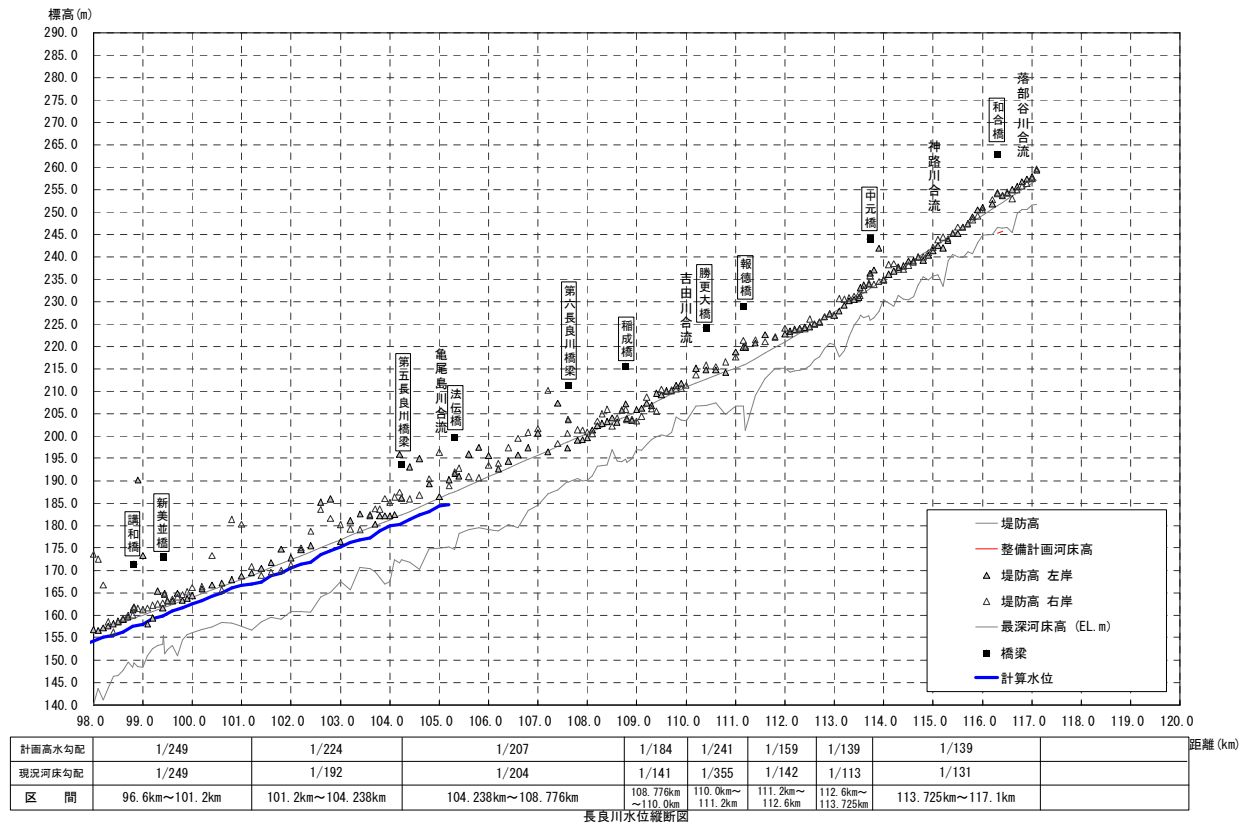


図-1.6 河道改修+遊水地+水田貯留案 縦断面図(98km~117km)